

[連載]第30回 清々しき人々 月尾嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

企業の社会責任の先駆 伊庭貞剛



伊庭貞剛 (1847-1926)

企業利益から社会責任への転換

世界最初の株式会社は一六〇二年三月二〇日にアムステルダムに本社を設けて設立されたオランダ東インド会社とされた...

一方、現在の企業と相違するのは外部社会への影響を考慮しない経済活動であったこと...

資源大国であった日本

日本は様々な資源を海外から輸入しています。石油、石炭、天然ガスなどのエネルギー資源



図1 戦前の別子銅山

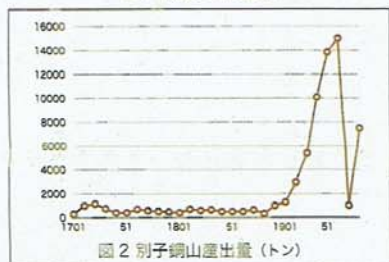


図2 別子銅山産出量(トン)



図3 伊庭貞剛 (1828-1914)

別子銅山は新居浜市の背後の山中で江戸時代初期の一六九〇年に発見されました...

別子銅山を発展させた広瀬幸平

経営権限を委譲された広瀬は改革を断行しますが、広瀬が立案した新規の事業の業績が順調ではなかった...

紆余曲折の住友への入社

伊庭は江戸末期の一八四七年に近江国西宮村(滋賀県近江八幡市)の代官伊庭貞隆の長男として誕生しました...

の自給比率は八%ですし、食料も主食のコメは自給していませんが、全体の自給比率はカロリー換算で四割、国土面積の七割が森林であるにもかかわらず木材も三割しか自給できていません...

Advertisement for 'Secrets of Microphysics' and 'International Chemistry Olympiad Challenge' by Asakura Shoten.

Advertisement for 'Waku Waku! Japanese History' series by National Folk Museum, featuring a list of 5 volumes.

一八九四年に別子に単身赴任し、その前年から別子銅山では銅鉱石製錬所から発生する亜硫酸ガスが周辺の農業に被害をもたらす被害により、農民の暴動が発生する事態になっており、その影響で広瀬が引退することになり、伊庭が後継となります。

四阪島製錬所の建設

この煙害問題は以前から指摘されてきました。広瀬が別子銅山の仕事を引受けた直後に、別子製錬所や製錬技術についての指導のため、フランスの鉱山学者、ラロックに来日を要請し、一八七四年に契約します。広瀬の月給の六倍に相当する六〇〇円を支払いますが、翌年に広瀬が一〇万円の価値があると絶賛した「別子銅山目録見書」が完成します。そこには煙害問題の対策として損害賠償のために資金を用意しておくことも記載されています。

しかし、赴任した伊庭は煙害で枯木ばかりになった荒廃した鉱山周辺の山肌を眺望し、別子銅山周辺の住民に補償するだけでは根本からの解決にならないと判断します。そこでこれまでの森林を伐採しながら山中で薪炭を燃料として製錬する方法から石炭を燃料にする方法に転換する必要があると判断しますが、そうすれば海岸にある現在の製錬所の拡張が必要であり、さらに平地での煙害が拡大するという矛盾に直面します。

そこで伊庭が決断したのは、新居浜沖二〇キロメートルにある



図4 中田中田直造(1841-1913)

無人の四阪島に製錬所を建設するという大胆な計画をした(図5)。そこで事前に個人名義で用地を購入し、一八九五年の年末に四阪島製錬所の建設の願書を政府に提出し、すでに引退していた広瀬も港灣、水道、住居など社会資本が皆無の場所に移転するのに必要な巨額の費用は損害賠償に充当することを進言します。

山林の環境復元へ尽力

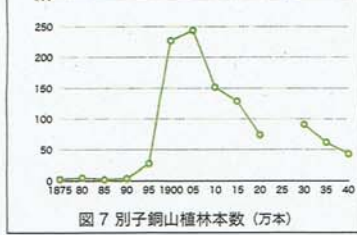
しかし、伊庭の生前に実現した仕事があります。銅山開発によって荒廃した山林の復元です。鉱石を採掘した山肌は完全に裸山になり、伊庭の赴任以前から植林は実施されていたものの、その本数は毎年数万本という単位でした。ところが伊庭が赴任した一八九四年に二万本を突破し、最大ときには二五〇万本が植樹されるようになります(図7)。晩年、伊庭は別子の植林こそ自分の本当の事業と述懐しています。

それ以外に、鉱山から排水される毒水が河川に流入し、山間の標高七五〇メートルの地点から海岸まで延長一六キロメートルの水路を煉瓦で構築、海岸に中和処理施設を建設しています。四阪島製錬所の建設も環境問題への対策として計算すると、伊庭が別子に赴任してから新製錬所が操業を開始した一八八一年間に投入された費用の半分が環境対策費用でした。現在の基準からは十分な環境対応とはいえないまでも、企業の社会責任の先駆

結することになります。この問題が解決したのは三〇年以上経過した一九三九年に中和脱硫技術が開発されたときで、伊庭の没後一三年目のことでした。



図6 四阪島製錬所



つぎお よしお
1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業、工学博士。名古屋大学助教授、東京大学教授を経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官、これまでコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしなが、知床半島、羊蹄山麓、釧路湿原、白馬仰山、宮川清流、瀬戸内海などを主筆し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。主要著書に「日本百年の取換戦略」(講談社)、「縮小文明の展望」(東京大学出版会)、「地球共生」(講談社)、「地球の救い方」(『水の話』遊行者)、「100年先を読む」(モラロジー研究所)、「先住民の叡智」(遊行者)、「誰も言わなかった!本当は恐いビッグデータとサイバー戦争のカラクリ」(アスコム)、「日本が世界地図から消滅しないための戦略」(致知出版社)、「幸福実感社会への転進」(モラロジー研究所)、「転換日本 地域創成の展望」(東京大学出版会)など。最新刊は「清々しき人々」(遊行者)。



ではなく、社会問題になることは例外でした。しかし、工業社会に転換した明治以後、先達諸国が経験した環境問題が日本でも発生しはじめます。この問題に果敢に挑戦した一人が伊庭貞剛でした。現在の環境問題は地域の問題から地球の問題に拡大していますが、その解決の第一歩は地域からです。そのような視点でも伊庭貞剛の精神は見直されるべきです。

月尾嘉男の本

水の話

人類の必須の資源の物語

1 人間の生存に必須の物質
2 世界のほぼすべての水不足
3 世界で最も汚染された水
4 世界で最も汚染された水
5 水は政治的・社会的な資源である
6 古来から水は政治的・社会的な資源である
7 水は政治的・社会的な資源である
8 水は政治的・社会的な資源である
9 水は政治的・社会的な資源である
10 水は政治的・社会的な資源である
11 水は政治的・社会的な資源である
12 水は政治的・社会的な資源である

四六判 196ページ 本体1,400円(税別)

先住民の叡智

世界各地の先住民を
訪ね歩いた著者が、
彼らの文化の中に
人類の進むべき叡智を探る。

1 先住民の叡智
2 先住民の叡智
3 先住民の叡智
4 先住民の叡智
5 先住民の叡智
6 先住民の叡智
7 先住民の叡智
8 先住民の叡智
9 先住民の叡智
10 先住民の叡智
11 先住民の叡智
12 先住民の叡智

四六判 200ページ 本体1,500円(税別)

清々しき人々

月尾嘉男 [著]

「モルゲン」の人気連載、書籍化!

「TBS ラジオ第1放送」でも紹介
「スタンバイ」でも紹介
今話題の一作!

自分のためだけでなく、人々のためにも高い理想と目標をもって生きた歴史に残る人々、23人を紹介。これから目指す社会のために。

・日本が東洋の英国になることを期待した教師……ヘンリー・ダイアー
・明治時代に情報社会を見通した天才……志田 林三郎
・関東大震災を警告した地震学の先駆者……今村 明徳
・日本の林学発展に活躍した……本多 静六、他19人

四六判並製 240ページ 本体1,600円(税別) ISBN 978-4-902443-44-8 C0023